

新規上場申請のための四半期報告書

(第28期第3四半期)

自 令和元年10月1日

至 令和元年12月31日

株式会社ウイルテック

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	4
第3 提出会社の状況	5
1 株式等の状況	5
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(5) 大株主の状況	5
(6) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
2 その他	13
第二部 提出会社の保証会社等の情報	14

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	新規上市申請のための四半期報告書
【提出先】	株式会社東京証券取引所 代表取締役社長 宮原 幸一郎 殿
【提出日】	令和2年2月10日
【四半期会計期間】	第28期第3四半期（自 令和元年10月1日 至 令和元年12月31日）
【会社名】	株式会社ウイルテック
【英訳名】	WILLTEC Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮城 力
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区東三国四丁目3番1号
【電話番号】	(06)6399-9088
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 渡邊 剛
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区東三国四丁目3番1号
【電話番号】	(06)6399-9088
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 渡邊 剛

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第28期 第3四半期 連結累計期間	第27期
会計期間	自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
売上高 (千円)	18,558,513	22,899,832
経常利益 (千円)	958,266	939,870
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	628,393	649,625
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	627,686	648,106
純資産額 (千円)	5,109,224	4,679,801
総資産額 (千円)	9,891,666	9,711,788
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	121.56	126.76
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—
自己資本比率 (%)	51.7	48.2

回次	第28期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 令和元年10月1日 至 令和元年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	41.55

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
4. 当社は、第27期第3四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、第27期第3四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
5. 当社は、令和元年9月19日開催の取締役会決議により、令和元年10月16日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、新規上場申請のための有価証券報告書（Iの部）に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は前第3四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っていません。

(1) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ179,878千円増加し9,891,666千円（前期末比1.9%増）となりました。これは主に、売上高の増加による売上債権の増加278,042千円及びその他に含まれる未収消費税の減少90,789千円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ249,544千円減少し4,782,442千円（前期末比5.0%減）となりました。これは主に、返済等による借入金の減少325,470千円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ429,422千円増加し5,109,224千円（前期末比9.2%増）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益628,393千円及び配当金の支払い237,864千円に伴う利益剰余金の増加390,529千円、自己株式の処分に伴う自己株式の減少16,618千円及び資本剰余金の増加22,981千円によるものであります。この結果、自己資本比率は51.7%（前連結会計年度末は48.2%）となりました。

(2) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成31年4月1日～令和元年12月31日）におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の長期化などによる輸出の伸び悩みを背景に外需が低迷傾向にある中、国内における設備投資や公共投資などの継続的な需要に支えられ、内需は堅調に推移いたしました。

こうした経済情勢にあって、当社グループを取り巻く事業環境は、主要取引先である電子部品・デバイス関連分野において、スマートフォンの普及一巡による需要低下にて輸出台数が減少するなど、スマートフォン市場が低調に推移いたしました。半導体市場においても、依然として低調に推移いたしました。IoTや5G（第5世代移动通信システム）などのさらなる実用化の動きにより、市場に回復の兆しも出てまいりました。

このような状況の下、当社グループは積極的な営業活動を推進すると同時に、コスト管理の徹底と業務の効率化を一層推し進め、業績の確保に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は18,558,513千円、営業利益は927,386千円、経常利益は958,266千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は628,393千円となりました。

セグメントの業績（内部売上を含む）は、次のとおりであります。

〔マニュファクチャリングサポート事業〕

当セグメントにおいては、当社が、製造請負・製造派遣事業、機電系技術者派遣事業及び修理サービス事業を営んでおります。

製造請負・製造派遣事業においては、主要取引先である電子部品・デバイス関連分野を中心とした受注が好調に推移いたしました。機電系技術者派遣事業及び修理サービス事業においては、既存取引先からの受注の確保及び新規取引先の開拓に努めました。その結果、売上高は13,228,237千円となり、セグメント利益は798,316千円となりました。連結売上高に占める当セグメントの売上高の比率は71.3%となりました。

〔コンストラクションサポート事業〕

当セグメントにおいては、株式会社ワット・コンサルティングが、建設系技術者派遣事業を営んでおります。

建設系技術者派遣事業においては、既存取引先からの受注が堅調に推移する一方で、採用コストを中心とした費用が増加いたしました。その結果、売上高は2,572,291千円、セグメント利益は76,767千円となりました。連結売上高に占める当セグメントの売上高の比率は13.9%となりました。

〔EMS事業〕

当セグメントにおいては、デバイス販売テクノ株式会社が、受託製造事業及び電子部品卸売事業を営んでおります。

受託製造事業及び電子部品卸売事業においては、受注の減少や製造コストの上昇等により、業績が低調に推移いたしました。その結果、売上高は2,692,133千円となり、セグメント利益は57,158千円となりました。連結売上高に占める当セグメントの売上高の比率は14.5%となりました。

〔その他〕

報告セグメントに含まれない事業として、障がい者支援事業、畜産業及び海外事業を営んでおります。

売上高は227,795千円、セグメント損失は4,857千円となりました。連結売上高に占めるその他の売上高（内部売上を除く）の比率は0.3%となりました。

セグメント	売上高
マニュファクチャリングサポート事業	千円 13,228,237
コンストラクションサポート事業	2,572,291
EMS事業	2,692,133
その他（注）2	227,795
調整額（注）3	△161,945
計	18,558,513

（注）1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、障がい者支援事業、畜産業及び海外事業を含んでおります。

3. 調整額は、セグメント間取引であります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は8,017千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	23,000,000
計	23,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (令和元年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (令和2年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,058,500	6,058,500	非上場	単元株式数 100株
計	6,058,500	6,058,500	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
令和元年10月16日 (注)	4,846,800	6,058,500	—	98,000	—	125,851

(注) 株式分割 (1 : 5) によるものであります。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

令和元年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 888,500	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 5,170,000	51,700	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	6,058,500	—	—
総株主の議決権	—	51,700	—

② 【自己株式等】

令和元年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社ウイルテック	大阪市淀川区東三国四丁目3番1号	888,500	—	888,500	14.67
計	—	888,500	—	888,500	14.67

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、株式会社東京証券取引所の「有価証券上場規程」第204条第6項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（令和元年10月1日から令和元年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成31年4月1日から令和元年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 最初に提出する四半期報告書の記載上の特例

当新規上場申請のための四半期報告書は、「企業内容等開示ガイドライン24の4の7-6」の規定に準じて前年同四半期との対比は行っておりません。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和元年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,576,959	3,522,380
受取手形及び売掛金	※2 3,022,924	※2 3,244,850
電子記録債権	※2 847,759	※2 903,876
商品及び製品	84,901	102,480
仕掛品	48,930	40,204
原材料及び貯蔵品	152,567	171,477
その他	712,343	628,682
貸倒引当金	△26,500	△26,000
流動資産合計	8,419,886	8,587,952
固定資産		
有形固定資産	699,630	709,595
無形固定資産	92,789	99,355
投資その他の資産	499,482	494,763
固定資産合計	1,291,902	1,303,714
資産合計	9,711,788	9,891,666
負債の部		
流動負債		
買掛金	212,793	274,596
電子記録債務	147,085	130,718
短期借入金	636,370	329,940
未払法人税等	143,843	182,062
賞与引当金	85,582	86,509
未払費用	1,605,610	1,675,482
その他	1,168,980	996,177
流動負債合計	4,000,264	3,675,488
固定負債		
社債	—	132,000
長期借入金	542,920	523,880
退職給付に係る負債	285,057	248,824
その他	203,744	202,250
固定負債合計	1,031,721	1,106,954
負債合計	5,031,986	4,782,442
純資産の部		
株主資本		
資本金	98,000	98,000
資本剰余金	125,851	148,832
利益剰余金	4,802,213	5,192,742
自己株式	△344,744	△328,125
株主資本合計	4,681,320	5,111,449
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,518	△2,225
その他の包括利益累計額合計	△1,518	△2,225
純資産合計	4,679,801	5,109,224
負債純資産合計	9,711,788	9,891,666

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日)
売上高	18,558,513
売上原価	15,739,480
売上総利益	2,819,033
販売費及び一般管理費	1,891,647
営業利益	927,386
営業外収益	
受取利息	159
受取配当金	80
助成金収入	34,550
その他	14,394
営業外収益合計	49,184
営業外費用	
支払利息	2,619
持分法による投資損失	3,138
その他	12,546
営業外費用合計	18,304
経常利益	958,266
税金等調整前四半期純利益	958,266
法人税、住民税及び事業税	328,017
法人税等調整額	1,855
法人税等合計	329,872
四半期純利益	628,393
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	628,393

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

		当第3四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日)
四半期純利益		628,393
その他の包括利益		
為替換算調整勘定		△706
その他の包括利益合計		△706
四半期包括利益		627,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		627,686
非支配株主に係る四半期包括利益		—

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和元年12月31日)
電子記録債権	31,321千円	—千円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。
なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和元年12月31日)
受取手形	9,100千円	9,238千円
電子記録債権	12,294	17,295

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日)
減価償却費	55,978千円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年6月25日 定時株主総会	普通株式	112,750	110.00	平成31年3月31日	令和元年6月26日	利益剰余金
令和元年11月19日 取締役会	普通株式	125,114	121.00	令和元年9月30日	令和元年12月20日	利益剰余金

(注) 令和元年10月16日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」については、当該株式分割前の金額を記載しております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成31年4月1日至令和元年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	マニファク チャリングサ ポート事業	コンスト ラクション ンサポー ト事業	EMS事業	計				
売上高								
外部顧客へ の売上高	13,228,237	2,572,291	2,692,133	18,492,662	65,850	18,558,513	—	18,558,513
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	—	—	—	—	161,945	161,945	△161,945	—
計	13,228,237	2,572,291	2,692,133	18,492,662	227,795	18,720,458	△161,945	18,558,513
セグメント利 益又は損失 (△)	798,316	76,767	57,158	932,243	△4,857	927,386	—	927,386

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、障がい者支援事業、畜産業及び海外事業を含んでおります。

2. 調整額は、セグメント間取引であります。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年12月31日)
1株当たり四半期純利益	121円56銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	628,393
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	628,393
普通株式の期中平均株式数(株)	5,169,345
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
2. 当社は、令和元年10月16日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

2【その他】

令和元年11月19日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

1. 配当金の総額……………125,114千円
2. 1株当たりの金額……………121円00銭
3. 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………令和元年12月20日

(注) 令和元年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和2年2月7日

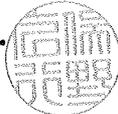
株式会社ウイルテック
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

俣野 広行



指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

三宅 潔



当監査法人は、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第204条第6項の規定に基づき、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に準じて、「経理の状況」に掲げられている株式会社ウイルテックの平成31年4月1日から令和2年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（令和元年10月1日から令和元年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成31年4月1日から令和元年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ウイルテック及び連結子会社の令和元年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上